

6 レジオネラ菌

津波や水害の後で、レジオネラ菌がエアゾルになって飛散し、体力が落ちた人などに感染して重篤な肺炎となる。発症すると致死率が高い。津波・水害の後片付けをしたり、水害のあった地域で引き続き生活したりしている人が罹患しやすい。疑いがある場合、被災した家屋に後片付けにいったかなどを聞く。治療開始が遅いと、人工呼吸器による呼吸管理が必要となる場合がある。

【症状】

高熱／呼吸困難／筋肉痛／吐き気／下痢／意識障害

【ハイリスク】

高齢／呼吸器基礎疾患／悪性新生物／糖尿病／過労／喫煙者／飲酒家など

MEMO レジオネラ肺炎

温泉施設を訪れた敬老会の団体などが、かかりやすい疾患。

7 小児の喘息

小児の喘息発作の症状は、大抵は呼吸困難（咳ではない）。喘息発作の既往のある子が、苦しそうにしている、呼吸が苦しいと訴えた場合、喘息の処置を行う。

【対応】

- ネブライザーもしくは吸入薬の持参を確認する（持参している人は、すでに吸入していることが多い）。

- 皮膚添付薬・内服薬など、ある薬剤はすべて試みる。
- 避難所での治療で改善しないときには、医療機関への救急搬送を手配する。
- 発作症状が改善していないときには、可能であれば看護師としても付き添っていく。
- 付き添いで行くときには、自分が戻ってくる行程も考えておく。

8 小児の発熱

【問診】

高熱の原因を尋ねる。水をかぶったまま・寒い屋外で長時間滞在など、とくになければ感染症の発生を考える。

【対応】

- おでこなどを冷やす。
- 水分を摂らせて風通しの良い所に横にする。
- 水分はスポーツドリンクを清潔な水で薄めたもの（避難所には最初、お茶と水しか来ないので、子どもが多い避難所では、パウダー状態でのスポーツドリンクを要望しよう！）。
- 慢性疾患（喘息・アレルギーなど）の既往を聞く。
- 持参薬の有無を聞く（喘息発作時などの）。
→持参薬がなければ、災害医療班の診察もしくは臨時医療拠点などを受診させる。
- 持病がある子どもは再発する可能性が大きいので、フ